



デルビル磁石式壁掛電話機

飯能市立博物館 学芸職員 波田 尚大



画像1 デルビル磁石式壁掛電話機

今月ご紹介するのは「デルビル磁石式壁掛電話機」です。2つあるベルを目に、自分の声を送るための「送話器」を口に見立てることで顔のように見えます。飯能郵便局において、明治42(1909)年11月に電話通話事務が開始され、明治44(1911)年12月26日に電話交換業務が開始されました。

「送話器」の下のプレートに「贈 日本電信電話公社」とあることから、少なくとも「日本電信電話公社」が誕生した昭和27(1952)年以降に製作されたものであることがわかります。

また、このタイプの電話はダイヤルがないため、交換手を通じて電話をする必要があります。交換手を必要としない、自動式の電話が飯能で使用できるようになったのは昭和36(1961)年3月19日のことであり、その9年の間に使用されていたものだと推測されます。

寄贈者によると、本資料は飯能市本町の橋本家で使用していたものであり、当館で所蔵する昭和42(1967)年の住宅地図では「橋本家」を3軒確認でき、その内の一軒で使用されていたものと考えられます。

市域に関する古い資料を見ていると、1-3桁の電話番号が記されている場合がありますが、それは自動式以前に使われていた番号です。自動式の電話が使用できるようになった段階で、例えば飯能市役所では電話番号が「24」から「2111」に変更となりました。

このように、電話番号は電話使用者の増加にともない、変化してきました。この変遷を見ていくと、以下の表の通りです。

現在、飯能市役所の電話番号は市外局番も含めて「042-973-2111」ですが、「0」は日本国内、「42」は東京都、埼玉県、神奈川県の一部であることを示しています。市内局番は「970」から「989」、「910」から「919」が飯能市に割り当てられています。

現代の生活でも欠かせない電話機ですが、その電話番号に着目すると、近現代資料の年代特定につながる重要な指標となるのです。(民具 No.5772)

【参考文献】

『地番 町名入り ゼンリンの住宅地図 観光産業 商工名鑑 飯能市 附 名栗村 67』文化新聞社・善隣出版社 昭和42(1967)年

NTT 東日本 WEB サイト https://www.ntt-east.co.jp/databook/data.html#sec_01

番号	期間	電話番号	出典
1	明治44(1911)年12月26日-昭和36(1961)年3月18日	1-3桁	小松崎 甲子雄『飯能の明治百年』文化新聞社 昭和43(1968)年9月 100-101頁
2	昭和36(1961)年3月19日-昭和44(1969)年11月29日	(04297)-4桁	『文化新聞』3754号
3	昭和44(1969)年11月30日-昭和63(1988)年11月16日	(04297)-1桁-4桁	『文化新聞』6478号
4	昭和63(1988)年11月16日-平成16(2004)年1月10日	0429-2桁-4桁	『広報はんのう』881号 6頁
5	平成16(2004)年1月11日-令和5(2023)年4月1日現在	042-3桁-4桁	総務省WEBサイト https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/tel_number/new_number_h15.html